

登録日本語講師ブラッシュアップ研修「いろどり 生活の日本語」報告書

田中恵子

○開催目的

KICC の初級日本語クラスで使用している教材「いろどり 生活の日本語」はどのような考え方の元に作成され、どのように扱っていくのがいいかを、作成者の一人である国際交流基金日本語国際センターの講師に話していただき、登録講師が日頃から抱えている疑問を解消すると同時に、今後の授業実践に役立てる。

○開催日時 ①②とも同一内容

① 2月15日 10時～12時

② 2月16日 14時～16時

○講師 国際交流基金日本語国際センター専任講師 磯村一弘

○参加者（別紙参照）

2月15日 14名

2月16日 12名

○内容

前半【説明編】

「いろどり 生活の日本語」の作成目的、基本理念、基本的な使い方（授業の進め方）に関して

- ・「いろどり」の対象：これから日本で生活する人、今、日本で生活している人
- ・「いろどり」の目標：日本での生活で必要となる基本的なコミュニケーションができるようになる
Can do 課題遂行ができるようになる
- ・「いろどり」のアプローチ：行動中心アプローチ
コミュニケーション言語能力 → コミュニケーション言語行動
目標と結びついた活動
- ・「いろどり」におけるオーセンティシティ
日本の生活の中で触れる日本語はできるだけそのままに
すべてを理解する必要はない 分かるものを使ってコミュニケーションをする
- ・授業の展開例：初級2トピック 年中行事とマナー
第9課 成人の日は何をするんですか
▶活動3
目標 Can do を確認する いわゆる導入は必要ない
1ことばの準備
聞き取り（順番に）→ リピート
聞き取り（ランダムに）

活動に必要なことばを紹介する 覚える必要はない

2 会話を聞きましょう

聞き取りタスクをする

学習者の様子を見て 1 回、あるいは 2 回以上聞かせる

〈はじめに音声インプット〉

たくさん聞く くりかえし聞く だいたいの内容を理解する スクリプトは後で確認

形に注目

答え合わせの後、「文法ノート」→「文法ワークシート」(付属教材)

〈文法学習〉

「気づき」を重視した文法学習 (Focus on form)

Can do 達成に必要な文法を学ぶ、練習する

3 祭りや行事について話しましょう

〈インプットからアウトプットへ〉

聞くだけ → シャドーイング → ことばを入れ替えて行う → 場面を考えて自分で自由に話す

〈Can do の自己チェック〉

・「いろいろ」の授業の流れ

教科書をそのまま使えば効果的な流れで授業ができるように作られている

暗示的学習

← 第二言語習得理論(SLA)の成果

・『いろいろ』授業の魔改造の例

コミュニケーション(Can do)ではなく、文型が目標になってしまう

音声のインプットが十分ではない(音を聞かせないで読ませる等)

教師が説明するばかりで学習者が話す機会が少ない。

後半

【質疑応答編】①(事前に寄せられた質問より)

・文法事項はどのタイミングで説明するべき?

会話の音声インプット → だいたいの内容理解 → 文法形式に注目させる → 文法の意味や形について考える、気付く → 「文法ノート」の説明を読む、教師が説明する → 文法ワークシートで練習する → 文法に注目しながら、もう一度会話を聞く → ロールプレイで自分で試してみる

・テ形や辞書形などの動詞の形の扱いをどうすればいいか?

最初は、辞書形は聞いてわかればOK

テ形も入門では聞いてわかればOK

ともに自分で作るのは「初級」以降

・『いろいろ』修了後、A2以降で扱った方がいい文法項目は?

「文法」でなく Can do で考えよう!

『いろいろ』以降は『まるごと』を参照すればよい

・文字が読めない学習者をどうするか?

ひらがな、カタカナぐらいは読めないと生活で困るよね

ローマ字振り仮名版(入門 10 課まで)あり

・『いろどり』サポート教材

世界の日本語の先生がサポート教材を作成してシェア

・漢字の扱いについて

漢字を手書きすることは求めている 読めればいい

・授業以外で自宅で勉強できる教材

「いろどりにほんごオンラインコース」

・聴解タスクの扱いについて

音声インプットが大切 必ず音声を聞かせる

・「形に注目」は書かせた方がいい？

書かせた方が注目しやすい チェックできる

・誤用訂正のタイミングは？

後からまとめて行うのがよいのでは

・シャドーイングがうまくできない

はじめは文字を見ながらでいい 何回もやれば慣れる

・各国語版の今後の予定

現在 18 か国語 今後も追加予定

・『まるごと』との関連性について

『いろどり』と共通の理念によって作成

・『いろどり』と『まるごと』

想定するユーザー

『いろどり』：日本で生活している人、これから生活する人

『まるごと』：海外で趣味で日本語を学ぶ成人学習者など幅広い層

『いろどり』のメリット

無料 入手が容易 著作権に自由度が高い 各国語版がより多い

「文法ノート」「日本の生活TIPS」 より細かなタスク指示

『まるごと』よりも「実際の生活場面におけるオーセンティシティー」をいっそう強く志向

・『いろどり』を終えたあとの次の教材は？

『まるごと』に移行する

【質疑応答編②】(その場での質問)

Q：1 課にかける時間は？ → 課によって Can do の数も難度も異なるので、平準化しにくい。やらない Can do というのがあってもいい。

Q：学習者の語彙不足で話が広がらない。(リピートになってしまう) → 先生が教えてあげてもいいし、スマホで調べてもいいから、未習の語彙でも使って言いたいことが言えるようにする。話したいことを話すのがとても大切。

Q：パワポに学習者の母語訳を入れるのは大変 → 学習者が各国語版を見ながら授業すればいい。

Q: 『いろどり』は書籍化されないか → 要望は多いが、契約上、書籍化しないことになっているので、
難しい。

Q: 語彙リストはどの程度出ているのか? → 「ことばリスト」(各拠点で作成)は9言語出ている。今後
増える可能性あり。